

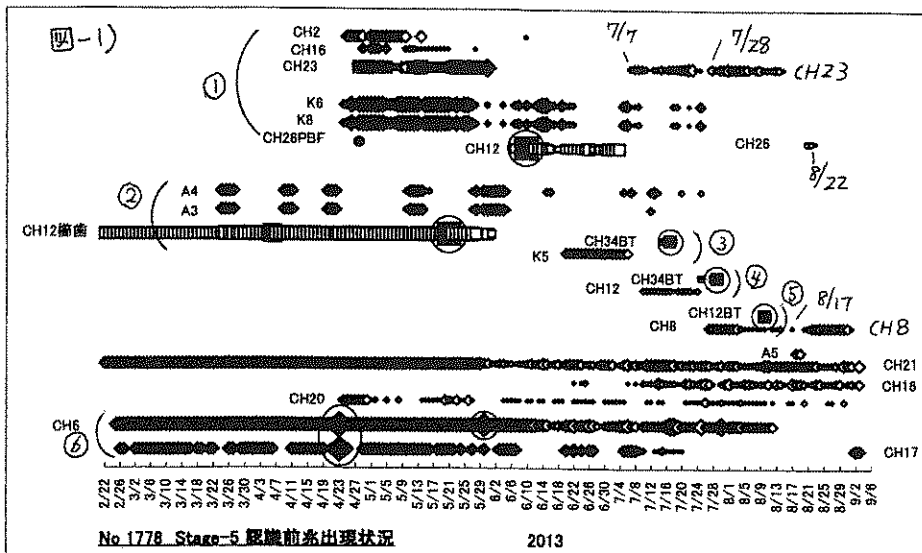
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告  
前兆継続動向から11月中旬の可能性の方が考え易い

2008年07月から5年3ヶ月以上長期に渡り継続する特殊前兆 No.1778の続報です。現在の第6ステージ前兆の動向から、発生時期を推定する作業を進めております。前情報で、二つの明確な極大=9/5と9/18について、主極大、副極大の可能性も考えましたが、主副共の同一観測装置はCH26のみで他は片方にしか出現しておらず、過去例とは異なり、この場合の主副極大認識は

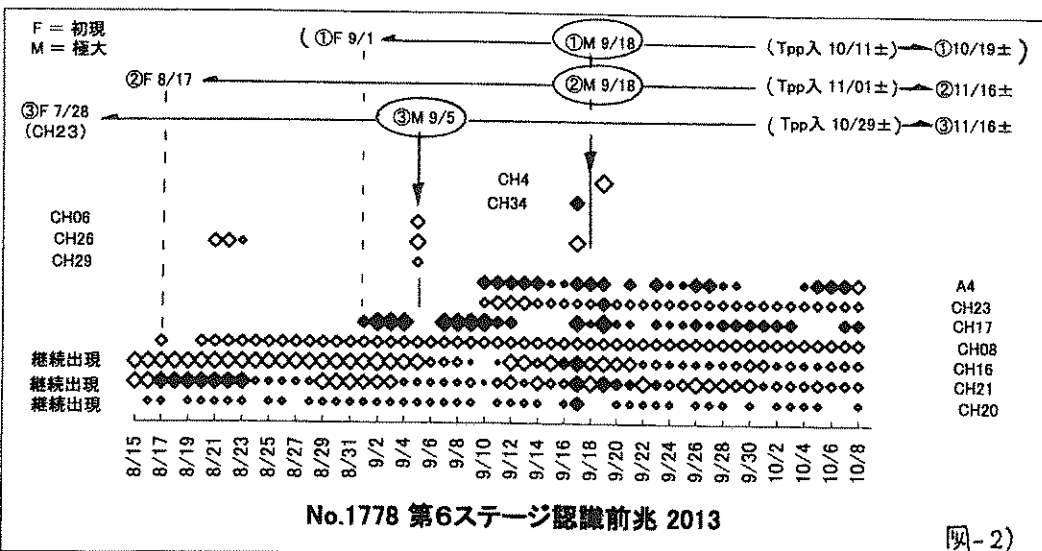
誤りである可能性があります。また図-2) のとおり、現在の前兆が数日中に減衰消滅する様には見え、9/5と9/18の両極大に対する初現認識が9/1以前である可能性が高まりました。下は第5ステージ前兆出現図です。この中に第6ステージの初現がある可能性を考え、改めて掲載致します。下の①~⑥は明確に9/5±を示す前兆関係が認められる前兆です。



初現~極大: 極大~発生 = 7 : 13 経験則

- ①初現=4/24 極大=6/10 ⇔ 9/5±
  - ②初現=3/24 極大=5/21 ⇔ 9/5±
  - ③初現=6/20 極大=7/18 ⇔ 9/8±
  - ④初現=7/10 極大=7/29 ⇔ 9/2±
  - ⑤初現=7/27 極大=8/10 ⇔ 9/5±
- 主極大~副極大=Tps 主極大~発生=Tmap  
Tmap:Tps=3.7:1
- ⑥主極大=4/24 副極大=5/30 Tps=36  
⇔ 9/4±

第5ステージが示した日=9/5 ⇔ 第6ステージ極大



過去の各ステージ前兆群では極大数が6又は12であったことから、第5ステージも上記の6極大で良い可能性があります。

上図-1) を見ますと、初現~極大前後まで前兆が継続し、極大出現後は終息している形が多く認められます。その中で上段のCH23と⑤のCH8は合いません。

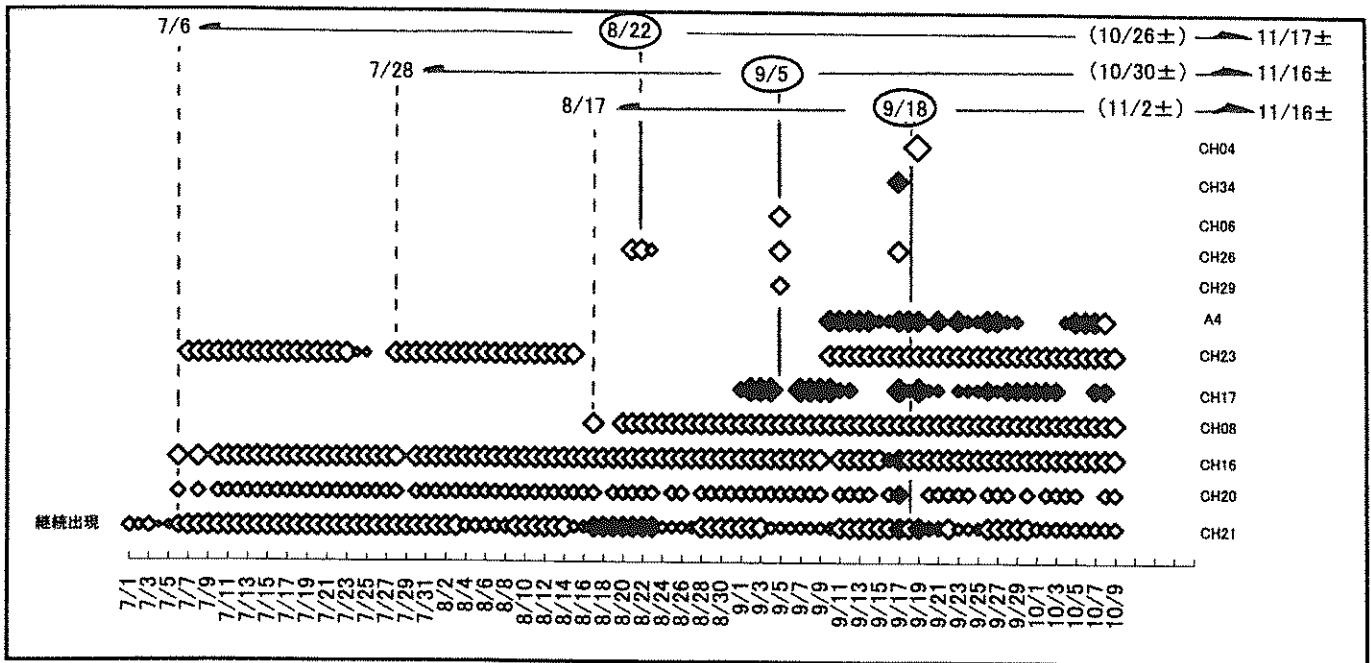
この⑥のCH8(8/17)を9/18極大の初現の可能性とし、また上段のCH23の二度目の継続初現=7/28を9/5極大の初現の可能性と認識した場合=どちらの関係からでも11/16±が計算されます。ちなみに上段のCH23の初現=7/7に8/22のCH26を極大と仮定しますと、同じ時期が計算できます。図中に示したとおり、当該認識が正しい場合には、今月末~11初旬まで前兆継続の可能性有。誤差を加味し10月13日段階でも前兆継続の場合は、11月16日±の可能性が高くなります。

※本No.48号は10月08日 16:10に、また次頁の続報No.49号は、本日10月09日 15:40に「地震前兆検知公開実験」にご参加戴いております皆様はFAXで配信した「地震前兆検知実験観測情報」の一部です。本日現在までの前兆出現継続状況を鑑みても、数日中に前兆消失の可能性は極めて考え難く、今回の内容の見解となりました。通常の前兆形態とは異なり、経験の無い形の前兆のため、認識理解を度々誤り、発生時期(示す時期)の修正が度重なっておりますことを深くお詫び申し上げます。なおHP続報記載日時と実際のHP上にアップされるまでの時間差は、HPを運営して下さっている実験参加応援者の方の御仕事の都合です。ご理解下さい。C) Copyright 2013 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告  
前号の補足 早い場合=11月17日±が考えやすい



長期継続特殊前兆No.1778の続報です。昨日配信の観測情報で報告のとおり、10/3迄の時点で考えておりました、二つのピークを主～副極大とする考え方は、同じ観測装置の前兆ピークではないため、誤りであると共に、仮に今年19日±に発生となる場合には、10月11日±に全ての前兆が終息することが計算されますが、最近の前兆継続状況から、数日以内に前兆が減衰消滅することは考えにくく、10/3迄の考え方が誤りであることが明らかとなりました。判りにくい前兆形態ではありますが、大変申し訳ございません。

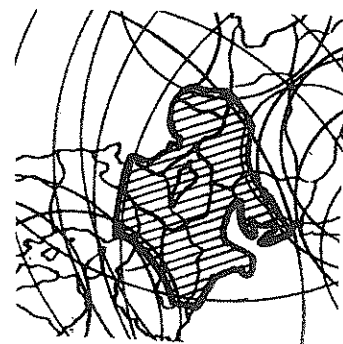
昨日の観測情報の補足として、ご報告させていただきます。

昨日の観測情報では、第5ステージ前兆群の前兆出現状況図を示し、9月5日±を示す前兆関係(初現～極大等の関係)を明確にし、9月5日±を示す前兆とは無関係に見える前兆をピックアップし、現在の第6ステージ前兆群の極大に対する前兆初現の可能性を探しました。結果としてCH23の特異、CH8特異が第6ステージに關係する継続前兆と認識されました。上図は、第5ステージ前兆群中から出現し、第6ステージ前兆群に關係すると認識された前述のCH23とCH8の出現状況を示すため、7月1日迄逆上って、現在の第6ステージ前兆群出現状況図に加筆修正した図です。なお、本日10/9夕刻段階でも前兆は継続出現中です。

第5ステージ前兆群中に第6ステージ前兆群に關係すると認識される継続前兆は、CH21は継続出現のため識別困難ですが、前述のCH8、CH23のみと認識されます。

第5前兆群の前兆出現形態から示された日は9月5日±でした。その9月5日には第6ステージの明確な極大が認められます。第2～第5ステージ迄、各々前ステージで示された日は、次ステージの最初

の極大等となっておりますが、上図では、8/22中心3日間のみ出現したCH26特異が極大の可能性として見えます。1エタのみで顕著ではありませんが、第5ステージが示した9/5±より前に小ピークがあることになり、この認識が正しいか否かは判りません。但し、上図上部に記した様な前兆初現～極大の関係を、前兆時間変化経験則(初現～極大:極大～発生=7:13比率)に当てはめると、全て11月17日±を示すため、現状上の認識がしやすい状況です。この認識が正しいか否かは、上図上部の( )内に示した前兆静穏化Tpp 突入時期に前兆終息が確認できるか否かで判断できます。11/18以降明確な極大も出現しておりませんので、これが最終段階の可能性もあり、慎重に観測解析を進めます。また上図の認識が正しいか否か判定は困難です。明確な極大=9/5 9/18に対する初現が上図記載の日付より前であった場合は、計算される発生時期は、より遅い時期となります判りにくい前兆形態で、修正が多く大変申し訳なく存じますがどうかお許し下さい。



【No.1778前兆からの推定】

- 推定領域=左図斜線域内(震源浅い地殻地震推定)
- 推定規模=M7.9±0.5
- 推定時期=早い場合  
11月17日±2  
(11月15日以前は発生否定)  
(今後の観測で修正の可能性有)
- 推定発生時刻=  
午前9時±2 or午後6時±2